笹川スポーツ財団
SASAKAWA SPORTS FOUNDATION

だから私は、愛別町。
aibetsu town

2026年11月24日

報道関係各位

公益財団法人 笹川スポーツ財団
北海道愛別町

【愛別町×笹川スポーツ財団】11月28日「アクティブチャレンジデー2026」を開催

特別支援学校の生徒と町民が、スポーツでつながる

人口約2,300人の町で、地域交流から将来的な就労・移住につながるまちづくりを目指す

公益財団法人笹川スポーツ財団（東京都港区、理事長：渡邉一利、以下「SSF」）が推進する「アクティブシティ」事業の一環として、北海道愛別町で2026年11月28日（土）、「愛別町アクティブチャレンジデー2026」が開催されます。

今回の取り組みでは、いま話題のニュースポーツ「モルック」を通じて、北海道美深高等養護学校あいべつ校の生徒と地域住民が交流します。生徒の状況に応じて町民との混合チームを編成することも検討されており、スポーツを通じた相互理解と地域コミュニティの活性化を目指します。

愛別町では、こうした交流をきっかけに、生徒の地域への理解や愛着を深め、将来的には町内事業所への就労や移住・定住につなげることも視野に入れています。



■人口約2,300人の町で、学校と地域をつなぐ

北海道愛別町は、人口約2,300人、高齢化率が約48％に達する町です。町内にある北海道美深高等養護学校あいべつ校は、2014年度に開校し、2026年度は41人の生徒が在籍しています。同校には旭川市など町外から通う生徒も多く、日頃から「企業内作業学習」として、役場や地域特産のきのこ工場などで職業体験を実施しています。

今回のアクティブチャレンジデーでは、こうした学校と地域のつながりをスポーツの場にも広げます。生徒と町民がモルックを通じて交流することで、互いへの理解を深めるとともに、町内事業所側の受け入れ体制の充実にもつなげたいと考えています。

愛別町では、将来的に町内のスーパーや福祉施設などへの就労、さらには移住・定住の促進も視野に入れ、誰もが地域社会の一員として活躍できるまちづくりを目指しています。

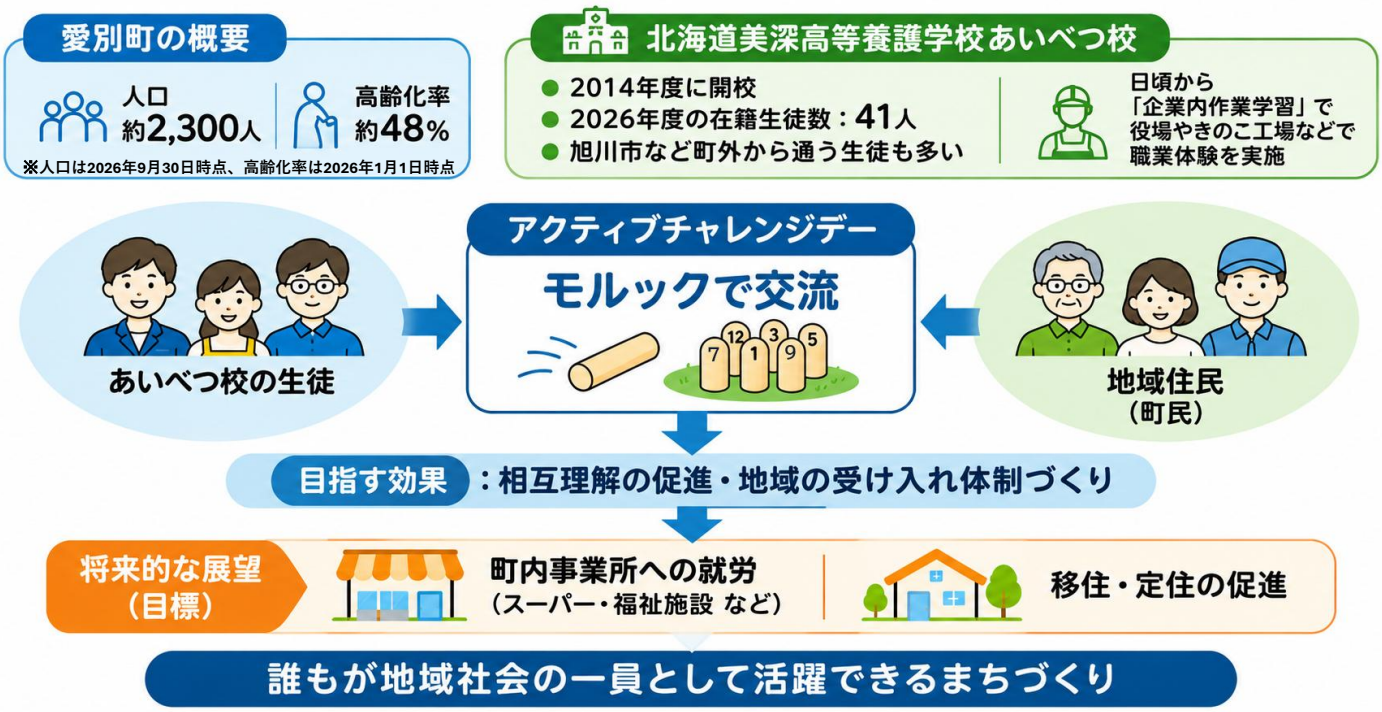
【本件に関するお問合せ先】
笹川スポーツ財団　広報担当：齊藤
TEL：03-6229-5300　info@ssf.or.jp

SPORT FOR everyone

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

笹川スポーツ財団
SASAKAWA SPORTS FOUNDATION

だから私は、愛別町。
aibetsu town



■モルックを通じた地域交流を

午前9時から開催される「愛別町モルック大会」では、あいべつ校の生徒と町民がともに競技を楽しみます。

モルックは、木製のピンを投げ棒で倒して得点を競うスポーツで、年齢や運動経験にかかわらず参加しやすいことが特徴です。生徒の状況に応じて町民との混合チームを編成することも検討しており、競技を通じて自然なコミュニケーションを促します。

当日はこのほか、町民バレー大会、ヨガ体験会、子ども向けのチャレンジランキング大会も開催。幅広い世代がスポーツに親しむ一日となります。

■開催概要

名称： 愛別町アクティブチャレンジデー2026
開催日： 2026年11月28日（土）
会場： 愛別町B＆G海洋センター、愛別町農村環境改善センター
主催： 愛別町アクティブチャレンジデー実行委員会
主管： 愛別町教育委員会

時間	プログラム	会場
9:00～12:00	愛別町モルック大会	B＆G海洋センター 体育館
13:30～17:00	チャレンジランキング大会	愛別町農村環境改善センター
14:00～17:00	町民バレー大会	B＆G海洋センター 体育館
14:00～17:00	ヨガ体験会	B＆G海洋センター 2階格技場

■ 【モルック大会　お問い合わせ】

教育委員会社会教育係

電話：01658-6-5115

【本件に関するお問合せ先】
笹川スポーツ財団　広報担当：齊藤
TEL：03-6229-5300　info@ssf.or.jp

SPORT FOR everyone
Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

笹川スポーツ財団
SASAKAWA SPORTS FOUNDATION

だから私は、愛別町。
aibetsu town

■ スポーツを地域課題解決の「一歩」に―SSFアクティブチャレンジ

SSF アクティブチャレンジ
スポーツで元気なまちづくり

「SSFアクティブチャレンジ～スポーツで元気なまちづくり～」は、SSFが推進する「アクティブシティ」の一環として実施する全国プログラムです。性別や年代、日頃の運動・スポーツ習慣に関係なく、多くの住民が参加できる「住民総参加型」と、スポーツを通じた社会課題解決にチャレンジする「社会課題解決型」の2つの形態があります。

今回の愛別町の取り組みは「社会課題解決型」として、スポーツを通じて特別支援学校の生徒と地域住民の交流を促進します。モルックを通じて互いを知り、理解を深めることで、地域での社会参加や、将来的な就労・移住にもつながるまちづくりを目指します。

■ スポーツで、地域はもっと変えられる。「アクティブシティ」という挑戦

SSFが推進する「アクティブシティ」は、地域のスポーツ課題や社会課題に対し、スポーツの多様な価値を活かして、課題解決やまちづくりを目指す自治体に伴走する取り組みです。行政、スポーツ、教育、健康・福祉、地域づくりなど、さまざまな分野の人や組織がつながり、地域課題の解決と住民のウェルビーイング向上を目指します。





SPORT FOR every one

【本件に関するお問合せ先】
笹川スポーツ財団　広報担当：齊藤
TEL：03-6229-5300　info@ssf.or.jp

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION